令和７年度
宇城市男女共同参画に関する市民意識調査
【調査結果概要版】

調査の目的

本調査は、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みとして、５年毎に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しており、市民の皆様の日常生活の実態や考えをお伺いすることで、男女共同参画に関する意識や現状を把握し、今後の男女共同参画の計画や施策に反映させるため、ご意見を集計、分析し、計画策定並びに今後の取り組みに向けた計画の基礎資料とすることを目的としています。

調査の実施要領・回答数

調査時期	令和７年 10 月 14 日～11 月 14 日
調査対象者	宇城市内にお住まいの満 18 歳以上の方の中から、無作為に抽出した 3,000 名
調査方法	郵送による配布・回収及びインターネット回収
配布数	3,000 件
有効回収数	1,218 件（郵送：870 件、WEB:348 件）
有効回収率	40.6%

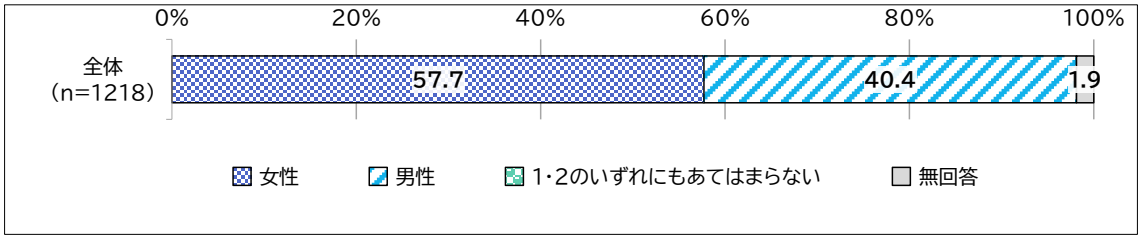
調査項目

１．ご自身のことについて	８．仕事、家庭、地域活動等の両立について
２．男女平等について	９．配偶者などからの暴力について
３．結婚に関する意識について	10．男女間のセクハラについて
４．固定的性別役割分担意識について	11．人権の尊重について
５．家庭生活について	12．メディアにおける性・暴力表現に関する意識について
６．子育て・教育について	13．男女共同参画に関するご意見やご要望
７．女性の社会参画について	14．災害・復興における男女共同参画について

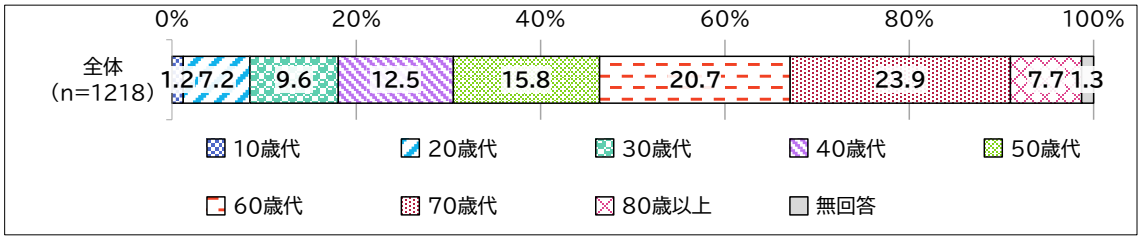
総務部　人権啓発課
〒869-0592　熊本県宇城市松橋町大野 85
TEL：0964-32-1708

1．ご自身のことについて

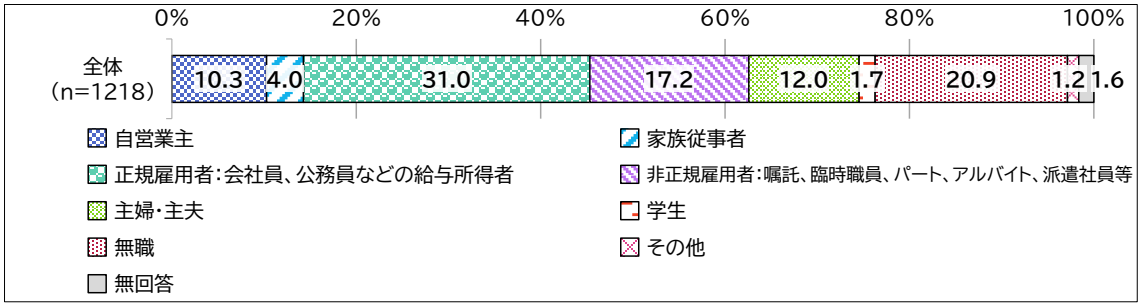
回答者の性別



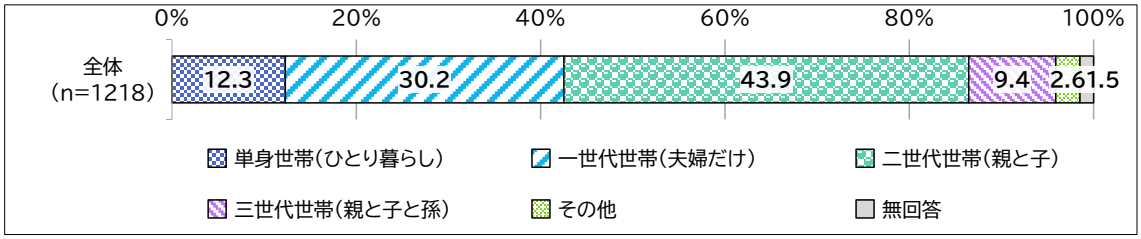
年齢構成



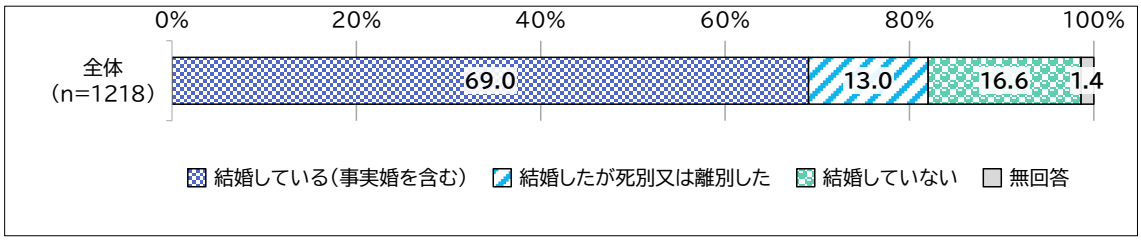
職業の構成



家族構成



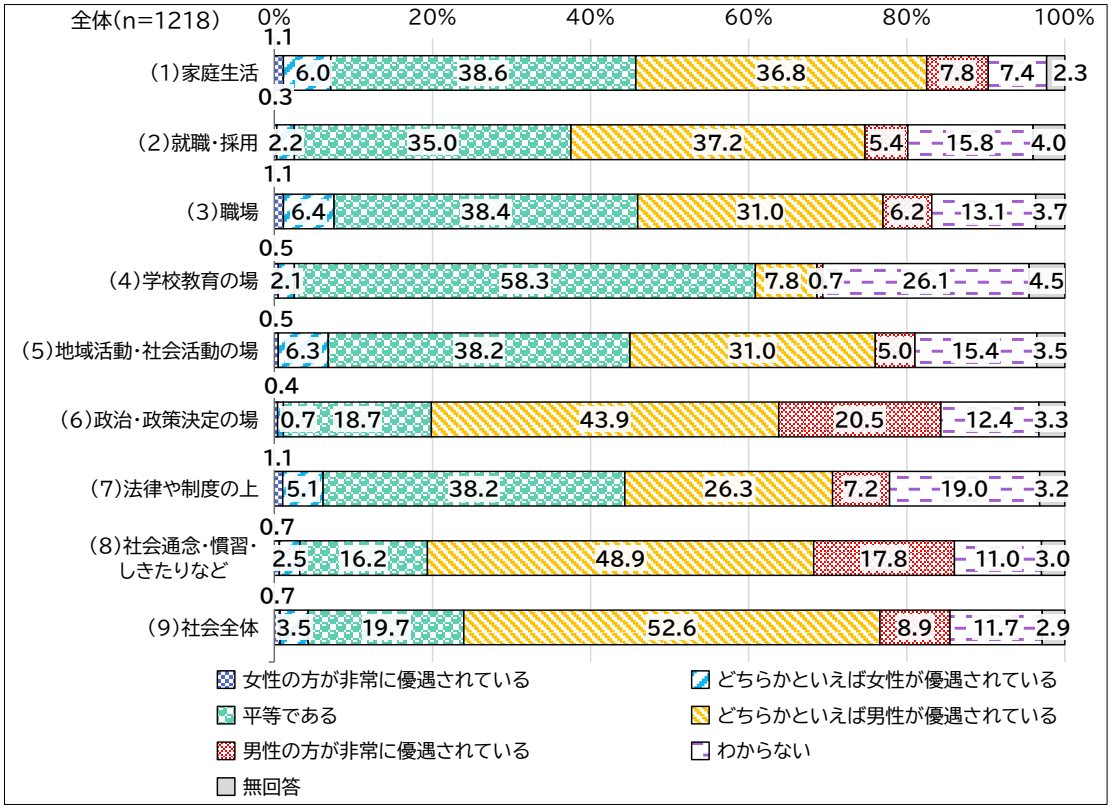
婚姻の状況



2．男女共同参画に関する意識について

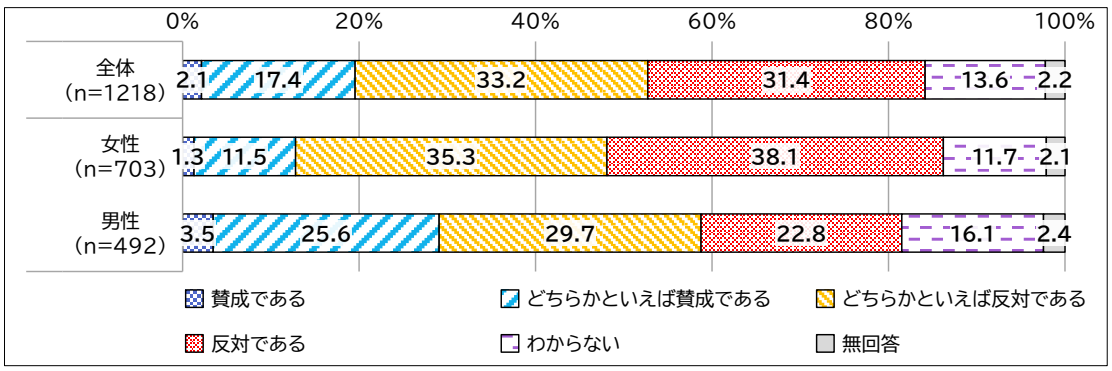
1．男女平等について

○「男性と女性は平等であると思いますか」と尋ねたところ、どの分野も『男性優遇感：男性の方が非常に優遇されている＋どちらかといえば男性が優遇されている』が『女性優遇感：女性の方が非常に優遇されている＋どちらかといえば女性の方が優遇されている』を上回っており、特に「（６）政治・政策決定の場」「（８）社会通念・慣習・しきたりなど」「（９）社会全体」では『男性優遇感』が６割を超えています。一方で、『女性優遇感』の割合はどの分野も１割に満たず、かなり低くなっています。



2．男女の固定的役割分担意識について

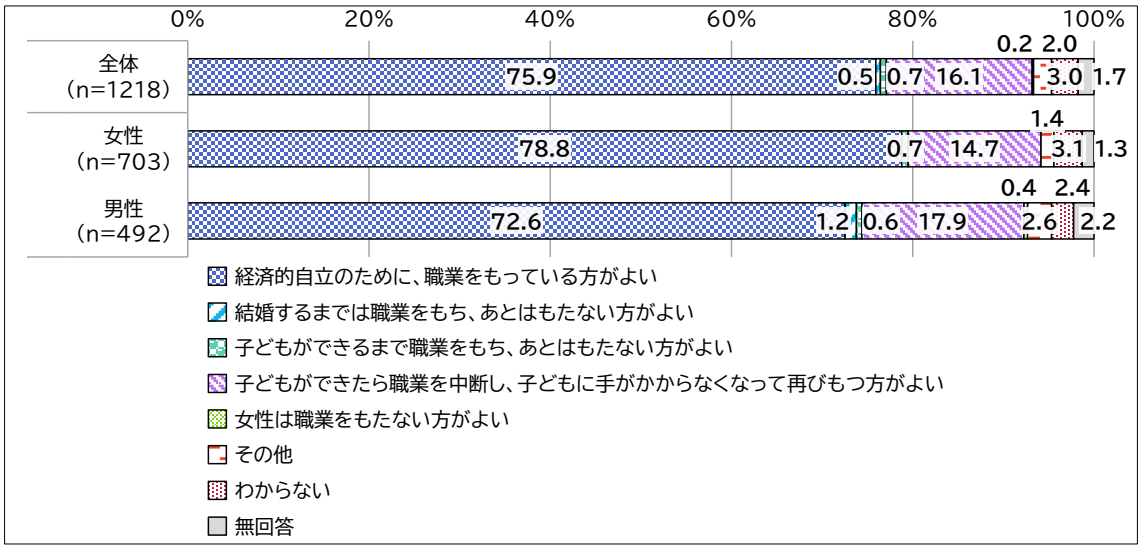
○『「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか』と尋ねたところ、全体の６割は『反対である：反対である＋どちらかといえば反対である』と回答しています。性別でみると、女性は「反対である」、男性は「どちらかといえば反対である」が最も高くなっています。また、男性は女性と比べて『賛成である：賛成である＋どちらかといえば賛成である』が高く、『反対である』が低くなっており、15 ポイント以上差が生じています。



3．社会参画とワーク・ライフ・バランスについて

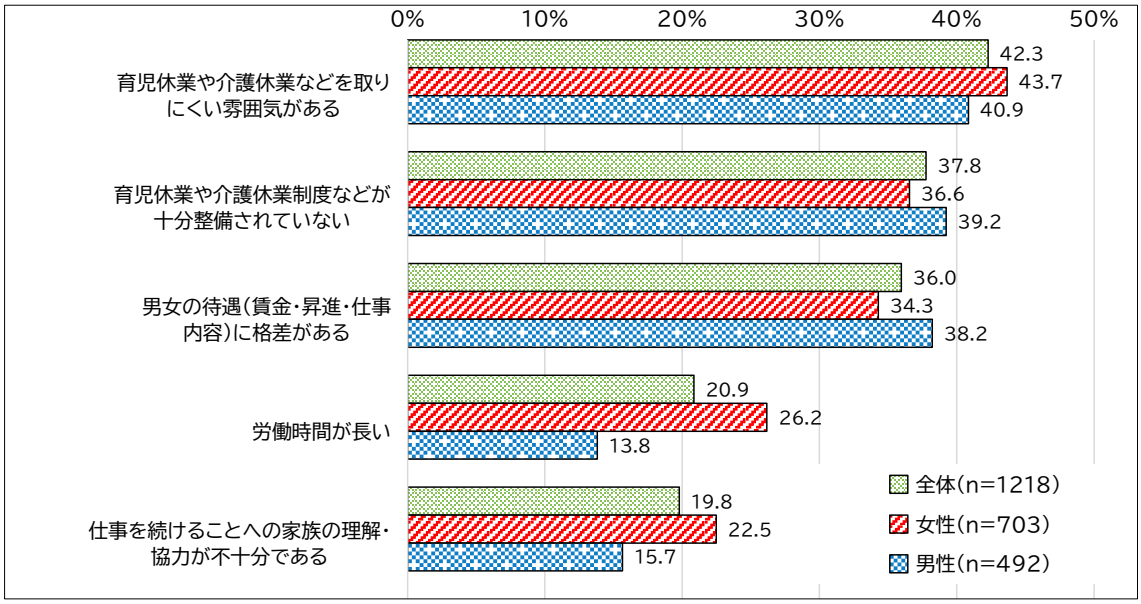
1．女性の働き方について

○「女性が職業をもつことについてどう思いますか」と尋ねたところ、「経済的自立のために、職業をもっている方がよい」が 75.9%と最も高く、次いで「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」16.1%、「わからない」3.0%となっています。性別でみても、男女ともに「経済的自立のために、職業をもっている方がよい」が最も高く、７割を超えています。



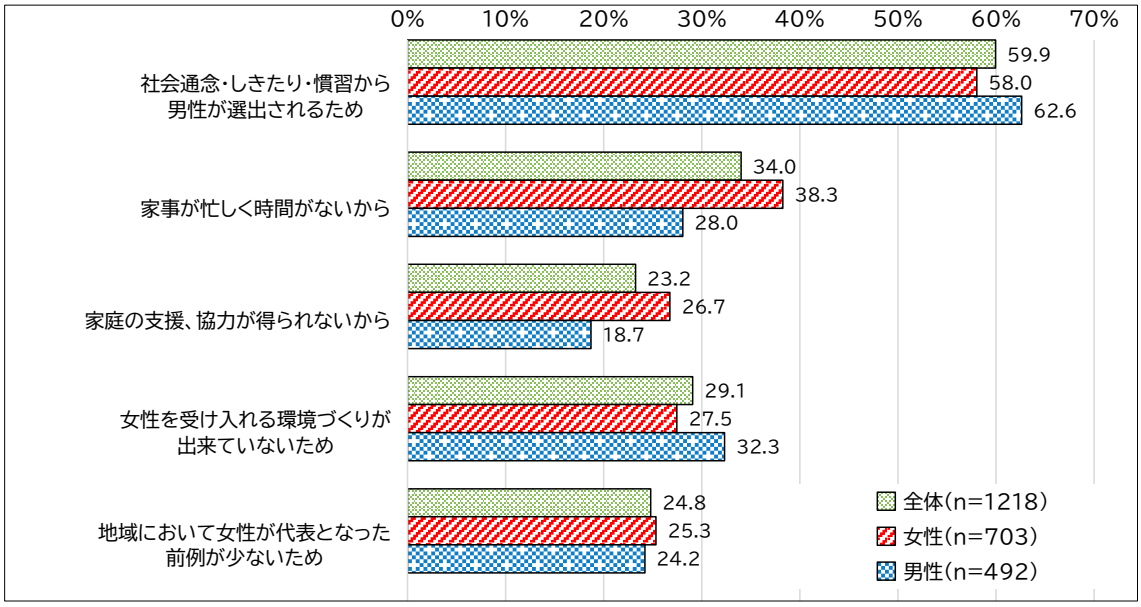
2．女性が職業を持ち続けるうえでの問題

○女性が職業をもち続けるうえでの問題について尋ねたところ、「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」が 42.3%と最も高く、次いで「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」37.8%、「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」36.0%となっています。性別でみても、「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」が上位を占めています。また、女性は男性と比べて「労働時間が長い」が 12.4 ポイント高くなっています。



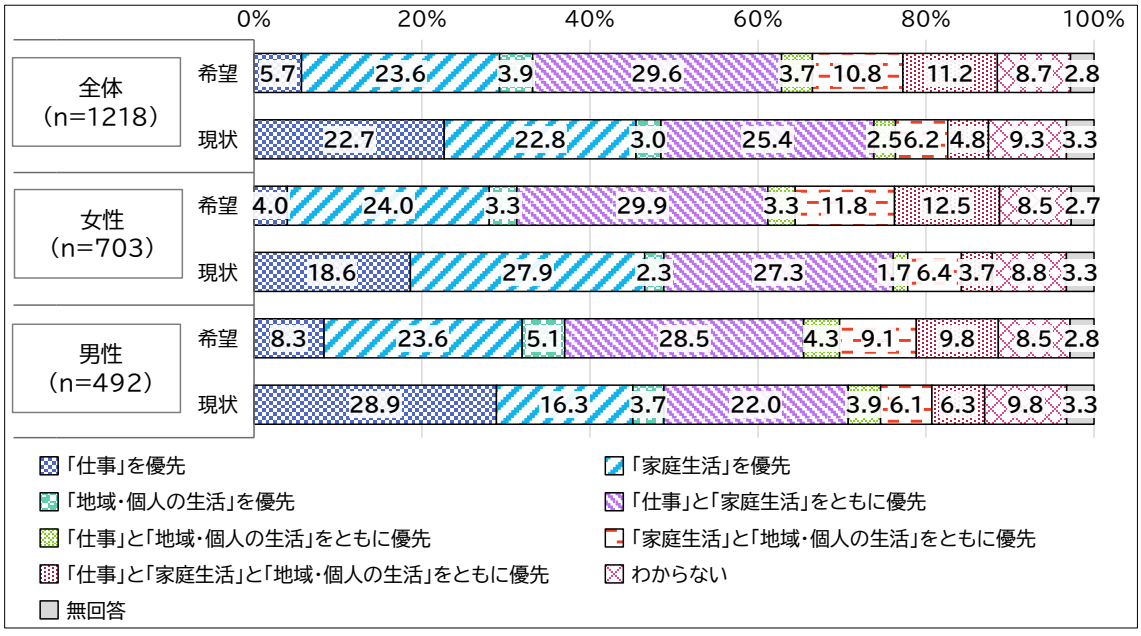
3．企画立案・方針決定の場に女性が少ない原因

○企画立案や方針決定の場に女性が少ない原因について尋ねたところ、「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」が 59.9%と最も高く、次いで「家事が忙しく時間がないから」34.0%、「女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため」29.1%となっています。性別でみると、男女ともに「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「家事が忙しく時間がないから」が 10.3 ポイント高くなっています。



4．仕事、家庭生活、地域・個人生活の両立に関する希望と現実

○「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、希望に最も近いもの及び現実（現状）に最も近いものを尋ねたところ、希望と現状ともに『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』（希望：29.6%、現状：25.4%）が最も高く、次いで『「家庭生活」を優先』（希望：23.6%、現状：22.8%）となっています。性別でみると、男女ともに希望では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が最も高くなっていますが、現状では女性は『「家庭生活」を優先』、男性は『「仕事」を優先』が最も高くなっています。

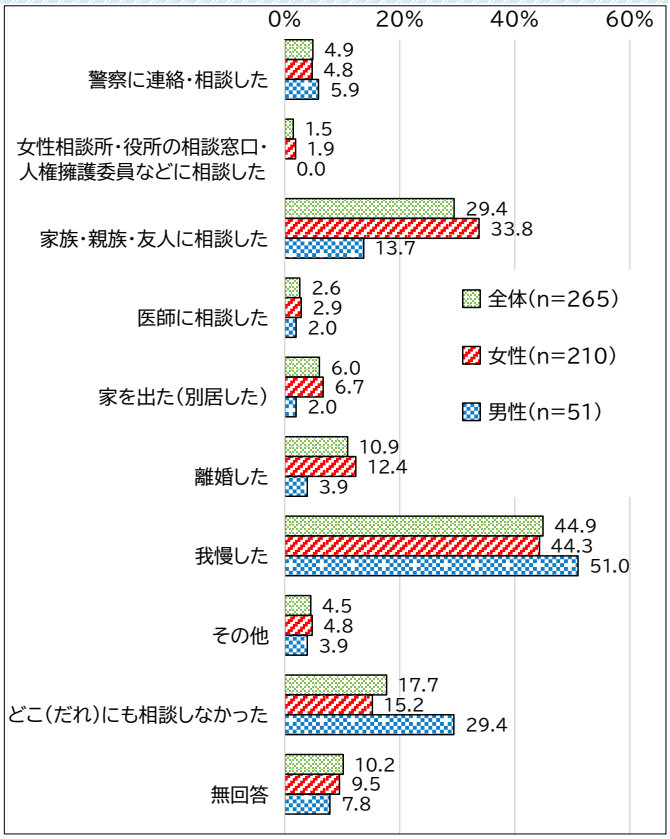


4．ドメスティックバイオレンスやセクハラについて

1．配偶者などからの暴力・被害を受けた際の対応

○配偶者などから暴力等の行為を受けた経験については、女性は男性より「されたことがある」、男性は女性より「したことがある」が高くなっています。特に「大声でどなって威嚇する」ことについては、女性の被害経験者及び男性の加害経験者の割合が１割を超えています。

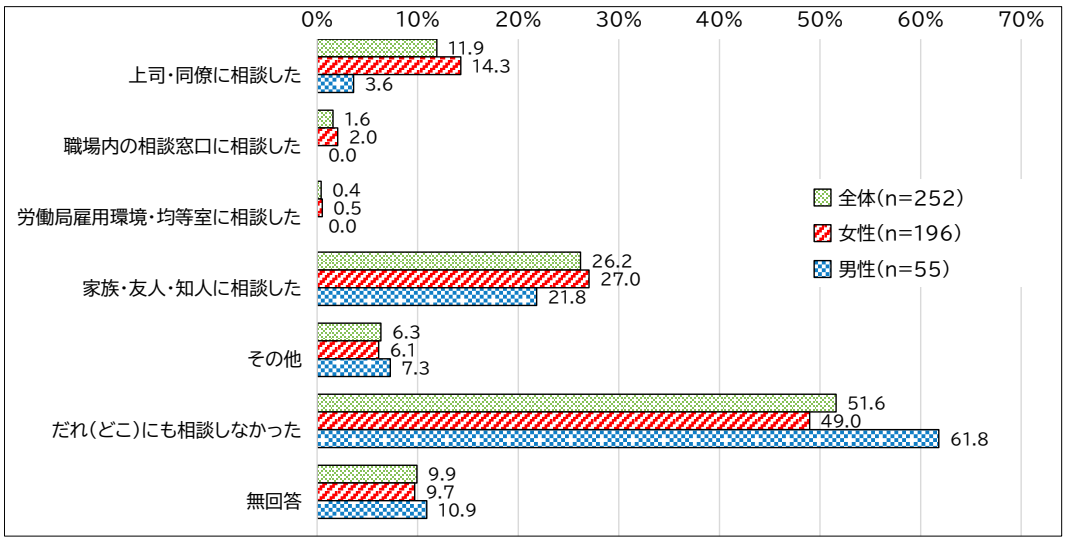
○被害を受けた際の対応について尋ねたところ、「我慢した」が 44.9%と最も高く、次いで「家族・親族・友人に相談した」29.4%、「どこ（だれ）にも相談しなかった」17.7%となっています。性別でみると、男女ともに「我慢した」が最も高くなっています。また、女性は男性と比べて「家族・親族・友人に相談した」が高く、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が低くなっており、10 ポイント以上差が生じています。



2．男女間のセクハラ・被害を受けた際の対応

○セクハラ行為を受けた経験については、女性では「「結婚はまだ？」「子どもはまだ？」としつこく言う」、「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」、「接待や宴席で、酌やデュエット、ダンスを強要する」が１割を超える結果となっています。

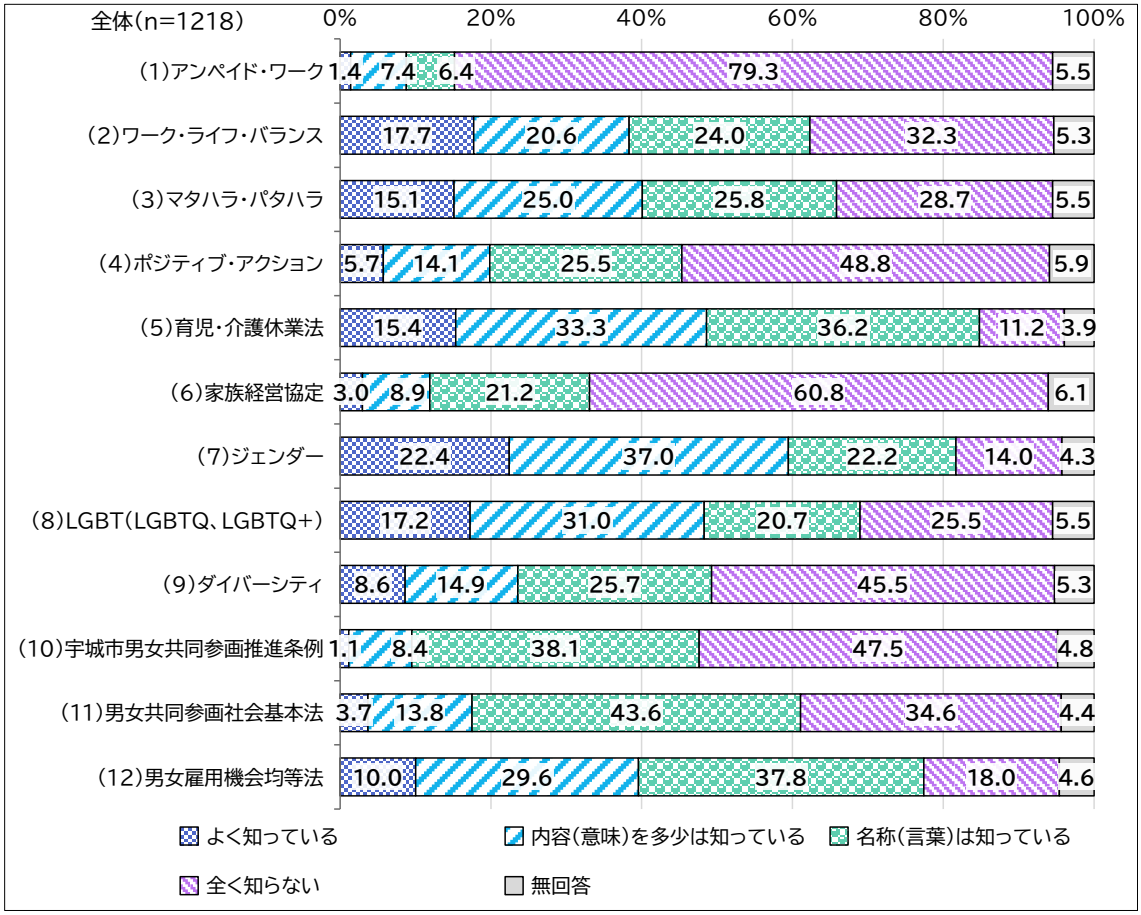
○セクハラ行為を受けた際の相談先について尋ねたところ、「だれ（どこ）にも相談しなかった」が 51.6%と最も高く、次いで「家族・友人・知人に相談した」26.2%、「上司・同僚に相談した」11.9%となっています。性別でみると、男女ともに「だれ（どこ）にも相談しなかった」が最も高くなっており、男性は女性と比べて 12.8 ポイント高くなっています。また、女性は「上司・同僚に相談した」が男性より 10.7 ポイント高くなっています。



５．男女共同参画の推進について

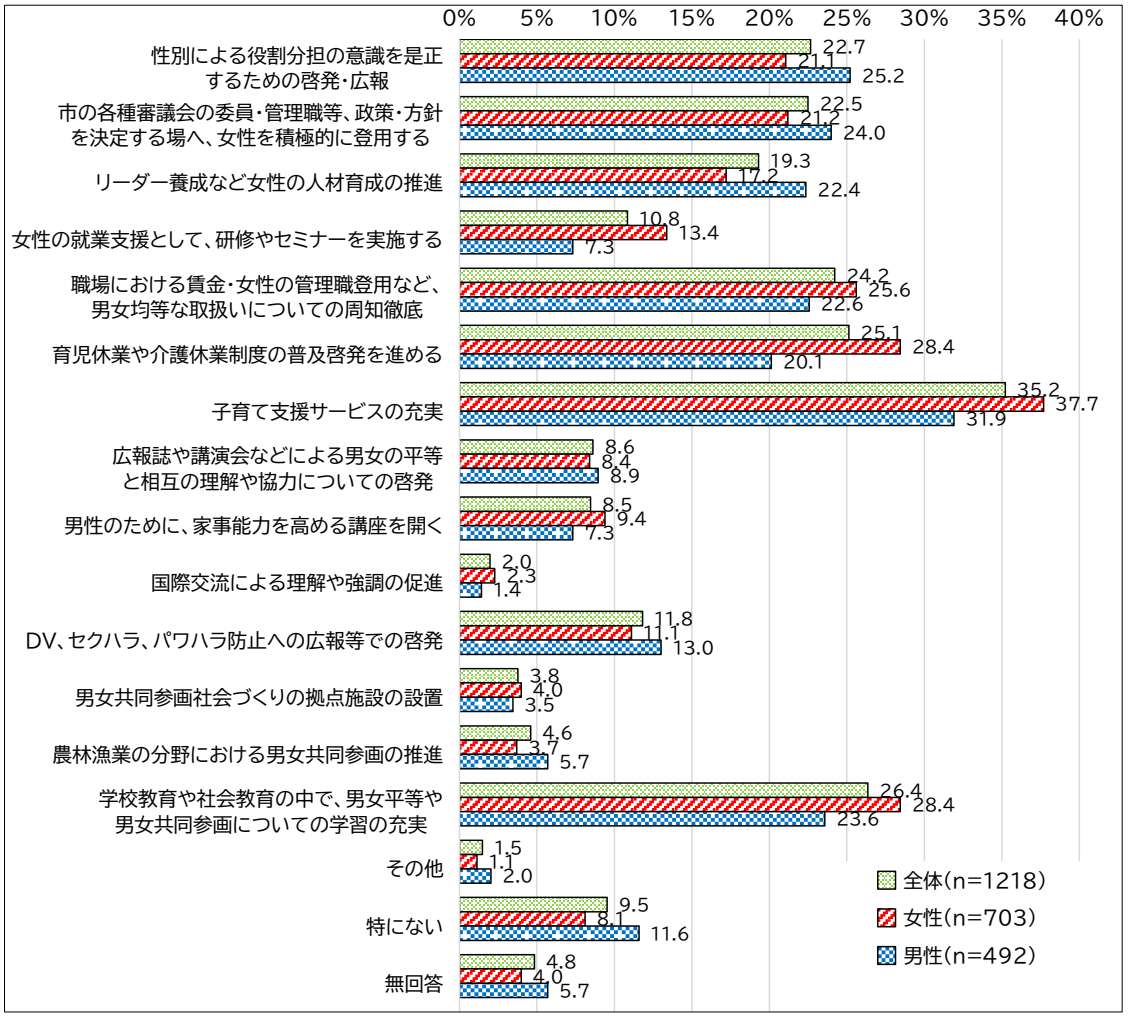
１．男女共同参画に関する用語の認知度

○男女共同参画に関連する用語の認知度について尋ねたところ、『知っている：よく知っている＋内容（意味）を多少は知っている』が最も高いのは、「（７）ジェンダー」59.4%、次いで「（５）育児・介護休業法」48.7%、「（８）ＬＧＢＴ（ＬＧＢＴＱ、ＬＧＢＴＱ＋）」48.2%となっており、「（３）マタハラ・パタハラ」も４割を超えています。「全く知らない」が最も高いのは、「（１）アンペイド・ワーク」79.3%、次いで「（６）家族経営協定」60.8%、「（４）ポジティブ・アクション」48.8%となっており、「（９）ダイバーシティ」「（10）宇城市男女共同参画推進条例」も４割を超えています。



２．宇城市の施策に望むもの

○「男女共同参画社会」の実現のために宇城市に望む施策について尋ねたところ、「子育て支援サービスの充実」が 35.2%と最も高く、次いで「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実」26.4%、「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」25.1%となっています。性別でみても、男女ともに「子育て支援サービスの充実」が最も高くなっています。



6．災害・復興における男女共同参画ついて

○大規模災害に備え、性別に配慮した取り組みが必要か尋ねたところ、「（２）自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす」以外はどの取り組みも「とても必要だと思う」が最も高くなっており、どの取り組みも『必要だと思う：とても必要だと思う＋どちらかといえば必要だと思う』が７割を超えています。